

日工販ニュース Vol.22 No.06



巻頭言 「ものづくり文化の伝承」	日工販理事 池浦 捷行	2
話題の技術 「小型高精度NC旋盤 BNA-34S/42S」	(株)ミヤノ 北沢 和敏	4
リレー随筆 「ワールドカップが転機」	(株)牧野フライス製作所 黒崎 一成	8
工作機械と私	(株)TEMCO 夏目 博幸	9
私の読書評 「新撰組と海援隊の経営学」	釜屋 (株) 山本 佳孝	10
SE教育 「合格者」		11
議事録 「政策」「理事会」「調査広報」		12
統計資料 「FA流通動態調査1」「工作機械業種別受注額」「マシニングセンタ・NC旋盤動向」		18
甘口辛口 「ジャカルタ雑感 ～海外赴任の勧め」	(株)ナチ常盤 岩崎 淳	21
消息・行事		22
会員会社		24

SE資格者にご回覧下さるようお願いします。

ものづくり文化の伝承



日工販理事

池 浦 捷 行

(株不二 社長)

国民が期待して政権交代を望んだ民主党政権がここに来て支持率を急速に下げ、政局混迷の度合いを深めています。昨年12月末に示した基本方針では環境、健康、観光の産業をキーワードとして、2020年まで名目GDPを平均で3%、実質2%以上の成長路線を掲げました。今年6月には、現政権としての経済成長戦略をまとめるようです。沖縄の普天間基地移転計画で難航している状況からそれどころではないと思われれます。さらに日本の財政赤字は2009年度末883兆円となり、2010年度末には973兆円に達する見込みで、年金問題、健康保険問題は解決の糸口さえ見つかかりません。高速道路の無料化、子育て支援としての「こども手当支給」については財源に窮する状況です。米国を始め各国中央銀行が金融危機の出口戦略に動き出している中で、我が国の経済政策はもどかしい限りです。

工作機械業界も2008年9月のリーマン・ショック以来、需要の急速な落ち込みに見舞われて苦境に立たされています。ここに来て、やっとほのかな光明が差し始めてきたかなと言う程度で、2008年上期まで続いた活況が「夢まぼろし」とさえ思われれます。こんな情勢の中、中国を筆頭にタイ、インドネシア、ベトナム、インド等の躍進ぶりが突出しています。益々、グローバル経済の視点が重要となってきました。2009年時点で世界人口の15%の先進国が世界GDPの半分強を占め、人口で37%を占める中印のGDPがまだ17%に過ぎません。人口序列方向への巻き戻しが起こるかも知れませんが、基幹産業としての工作機械業界の飛躍が期待されます。



今、地方でも「ものづくり文化」が急速に衰退しています。物流の大手社長が「頑張れ日本のモノづくり」と称して中小企業を支援するキャンペーンがありました。匠の技、職人の技の伝承が求められています。これからの日本は「本物の価値観」を創造していくべきだと考えます。ドイツのマイスター制度もあらためて見習うことが重要でしょう。浜松市も創造都市を目指して楽器製造で培われた「ものづくり文化」を振興すべきという機運があります。2008年4月に浜松市は18番目の政令指定都市となりました。平成の広域合併の結果、全国で二番目に面積の広い政令市が誕生しました。国際的には浜松という地名を知らなくても、ヤマハ、ホンダ、スズキのブランド名は浸透しています。地方分権型社会の構築が急務となっています。日本中の都市が独自の文化を育て、持続可能な社会を造らなければなりません。

徳川家康といえば、当地浜松城に17年間(27~45歳)在城しています。徳川幕府260年の礎となる働き盛りの家康が辛酸をなめた時代でもありました。正室の築山御前殺害、長男信康の自刃、三方原での甲斐武田信玄との合戦で生涯唯一の敗戦を喫する。しかし駿府城に移る時は、すでに三河、遠江、駿河、甲斐、信濃の5カ国の領主となっていました。家康は刀鍛冶職人を現在の鍛冶町に集め、38軒の鍛冶師がいたようです。家康の萬人処世訓に「人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず。」とあります。何事もじっくりかまえた取り組みが功を奏することになったようです。

2008年に経団連の御手洗富士夫会長は道州制導入が最大の行財政改革であると言われました。前三重県知事の北川正恭早大教授は「行政への依存から創意工夫による自立へ」と進めることの重要性を説いています。つまり補助金行政からの離脱が日本再生への道筋と強調されました。アエラビジネス臨時増刊号(2010.3.25)の滝川クリステルインタビューは必見です。元ソニー会長の出井伸之氏の「日本の進むべき道」は興味深いものです。製造業もITもメディアもすべてボーダーレスの時代には政治も変わらなければいけません。次世代にかけがえのないものを伝えていきたいものです。

(発行責任者注記：今月号の巻頭言は5月12日にご寄稿頂きました。)

分かりやすい話題の技術

Inteligible Recent Technics ★

No.119

小型高精度NC旋盤 BNA-34S/42S



(株)ミヤノ
技術本部設計部部長
北 沢 和 敏

当社はカム式自動盤から発祥したNC旋盤メーカーで、小・中径バー材NC旋盤、小径精密・中径チャッカーNC旋盤のセグメントを主な事業領域として開発・販売を進めています。特に中径バー分野の棒材供給径 $\phi 34 \sim \phi 42$ を最も得意分野として、スライド面きさげ仕上げ、アンギュラベアリング+円筒コロベアリングの高剛性スピンドル、定盤構造の高剛性ベア

スを採用して高剛性、高耐久性、高精度を強みとしたNC旋盤を機種展開しております。

今回、当社のベストセラーマシンであるBNC、BNDシリーズを統合したBNAシリーズを開発して2010年2月より販売いたしております。そこで本テーマである分かりやすい話題の技術について写真1のBNA-34S/42Sを用いご紹介致します。



写真1. BNA-34S/42S外観

1. 生産性向上

生産性向上とは加工サイクルタイムの短縮のみならず、段取り時間などの生産に関するトータル時間を短縮することです。

当社は2007年より主軸台移動タイプ自動旋盤を主な商品とし生産性向上制御技術を得意とするシチズングループと技術提携し、主軸台固定タイプNC旋盤にこの制御技術を導入、進化させてきました。加工サイクルタイムを動作ごとに細かく展開して、処理時間の短縮、動作の重合化などの徹底した無駄時間削減を実施しました。その結果、本制御技術を取り入れたBNA-34S/42Sにおいては大幅な非切削時間短縮を実現しました。図1にBNA-42Sと当社従来機で同一ワークにてサイクルタイムを比較した表とワークを示します。非切削時間で23%削減、全サイクルタイムで13%の削減となっ

ております。

当社NC旋盤は冒頭に上げた高剛性、高耐久性、高精度を強みとして、ターニングバイトおよびドリルツールの加工負荷を上げて「バリバリ」削るNC旋盤として評価されていました。今回この制御技術を導入することにより実切削時にはバリバリ削って、非切削時にはサクサク動くNC旋盤BNA-34S/42Sを市場投入する運びとなりました。むしろこの制御技術は当社全機に展開していく予定です。

また、生産性向上の段取り時間短縮については、加工データの加工長さ、突切り位置などをあらかじめ入力しておくことにより、工具形状補正測定や工具取り付け作業の再段取りを容易に行えるようなシステムとなっています。

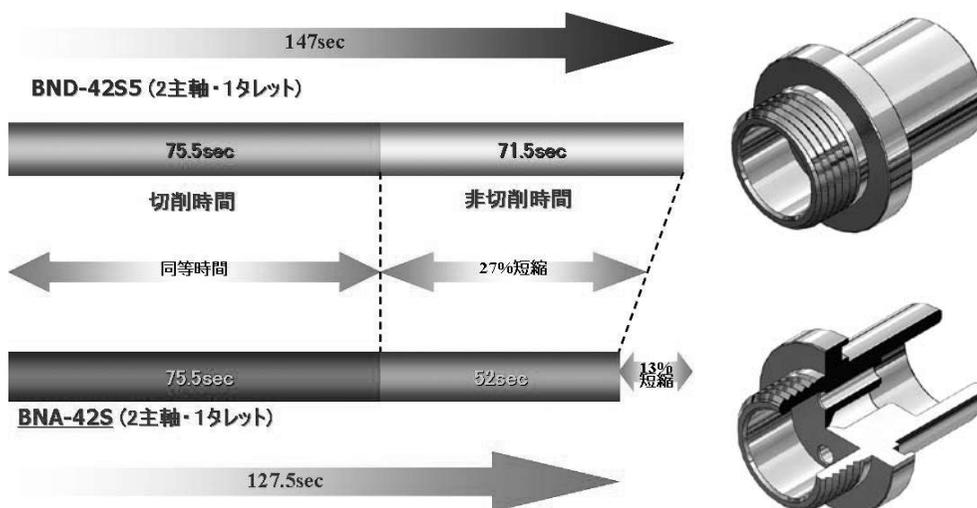


図1. BNA-42Sサイクルタイム比較

2. 豊富なツールとコンパクト化

小型タレット式NC旋盤のパフォーマンスを考えた場合、有効面積・有効コスト中に何本の回転工具およびターニングツールを設置できるかが各旋盤メーカーのしのぎをけするところであり、BNAシリーズはここに焦点をおき、開発を進めました。

写真2にBNA-42Sタレット刃物台のツールホルダー取り付け状態を示します。8角タレット旋回径 $\phi 390$ ハーフ割り出し機構付で最大16ポジションにツールが取り付け可能となっています。また従来、本サイズでは困難とされた、回転工具単独駆動・全ポジション取り付け機構も実現致しました。この方式は従来の回転工具ツール自身にベベルギヤを要し、加工ポジションの回転工具ツールを回転することで他の全てのそれが回転してしまうタイプに比べ、トルクロスが少なく、長寿命などの利点を有します。

写真3は各種ツールホルダーです。ハーフ割り出し機構を用いた刃物取り付けやZ軸ダブル回転工具などで1面に取り付けられる刃物数を拡大し複雑ワークにも対応しています。

以上の構成を採用することで、1ランク上の機械機能を持たせることができ、設置面積当社従来比、30%削減のコンパクト化も実現致しました。



写真2. BNA-42Sタレット刃物台



写真3. BNA-34S/42S各種ツール

3. 高精度維持

機械性能で最も重要な項目の一つに「時間経過による寸法変位量の抑制」があります。

一般的に寸法変位量の評価は機械本体をコールド状態から運転させ、時間経過による寸法変位量の大小を評価するもので、生産現場で不良品を出さないために最も気をつかうところでもあります。その原因のほとんどが、熱による各要素部品の膨張および変形で、熱変位と呼ばれメーカーサイドでは数々の対策が取られています。その中であって機械ベース（ベット）は熱変位に最も影響をもたらす要素とされています。

図2はBNA-34S/42Sベースの熱解析を実施したものです。ベースに加えられる熱源として高圧クーラントによる切削油の温度上昇、各種モータの発熱、油圧アクチュエーターの発熱などがあり、これらによりベース各部に温度差が生じ変形がもたらされています。当社はタンク

内メンテナンス作業（清掃性）を考慮したクーラントタンク一体型ベースを採用しており、タンク内部へ全体的に切削油をまわすことによりベース各部の温度差を均一に保ち変形量を最小に抑えています。またクーラントタンク一体型ベースはワークを切削した場合の切屑処理の構造を持たせなければならずベース構造の理想と言われている箱型定盤構造が取りづらく各部に穴を明けた構造となりますが、ベースの鋳物リブ構造を最適設計することにより温度差が生じた場合でも変形量を最小に抑える構造を取っています。

今後ますます要求される工作機械としてニーズを的確にとらえ、よりすぐれたNC旋盤を市場に提供し続けたいと思います。

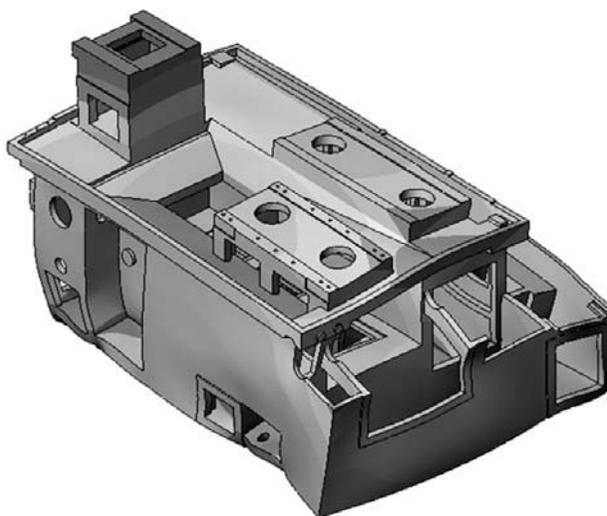


図2. BNA-34S/42S熱解析



リレー随筆



ワールドカップが転機



(株)牧野フライス製作所
本社営業課二係係長
黒崎 一成

今月は四年に一度のサッカーワールドカップ、南アフリカ大会が開催されます。

「ドーハの悲劇」で有名な '94年アメリカ大会アジア地区予選での日本代表チームの魅力にとりつかれて以降、ワールドカップを通じた転機となるエピソードが思い出されます。

'98年フランス大会アジア地区予選では、当時、6カ月間の入社研修を終え、営業の職場に配属され、分からないことだらけな上に、ミスの連続で自分の無力さにストレスを感じる日々でした。週末の日本代表の試合だけを楽しみに仕事に打ち込んでいましたが、日本代表チームも調子が上がらず、敗戦、引き分けが続く、ワールドカップ出場が絶望的な状況まで追い込まれ、自分の仕事に重ね合わせたりもしました。しかし、最後の最後に「ジョホールバルの歓喜」といわれる劇的な勝利により出場権を獲得し、自分も掛けずに頑張ろうとモチベーションを上げたことが思い出されます。

'02年日韓大会では、ITバブル後の不況で営業成績がなかなか上がらない日々でした。日本代表チームの初戦、ベルギー戦は平日の夕方、どうあがいても生中継を見られない時間で、苦肉の策として営業所でセミナーを開催し、セミナー終了後、セミナー用プロジェクタの大画面で来場されたお客様と一緒に観戦し、大いに盛り上がりました。意外にもセミナー企画が功を奏し、営業成績が上がり出し、それにより積極的にイベント企画を次から次へ打ち出したことが思い出されます。

'06年ドイツ大会では、仕事に没頭する日々で、不健康な生活習慣から入社当時に比べ15kgも体重が増加していました。不健康な生活から脱却するため、サッカーの盛り上がりに乗じて社内でフットサルチーム「目黒スピンドルスルー」を結成し、実際にサッカーをプレーし始めました。それにより、普段から運動することを心がけ、今では入社当時の体重に戻すことに成功しました。

最近、Jリーグ浦和レッズの試合を観戦に行くことが多くなりました。浦和レッズは「堅守速攻」を標榜し、'06年Jリーグ優勝、'07年アジアチャンピオンズリーグ優勝と強豪チームになりました。しかし、一部のスター選手が点を取り、他のメンバーが守りを固める手法が他チームに研究し尽くされ、勝てなくなりました。'09年よりフォルカー・フィンケ監督のもと「人とボールが動くポゼッションサッカー」をテーマにチーム改革中です。フィールド上を動くボールに対し複数のプレーヤーがフレキシブルにポジションチェンジしてボールを囲み、動き続ける全員サッカーです。

'10年南アフリカ大会でも仕事上の転機を迎えるべく、従来の営業活動にとらわれず、新たに出てくる新規分野に対し、フレキシブルにチームワークでフットワーク良く対応していく営業活動に奮闘中です。

次号はユアサ商事(株)、脇田様へお願いしました。よろしく願いいたします。

工作機械と私



(株)TEMCO
工作機械部東京工作機械グループ

夏目博幸

私が工作機械業界で仕事を始めてもうすぐ3年になります。「工作機械」自体は大学の授業や卒業論文で使ったことはありましたが、あまりまじめな学生ではなかったので残念ながらその時勉強した事は全く覚えておりません。この業界に転職することになって今更ながらあの時まじめにやっていたらと思うことも多々あります。

最近ようやく少しずつですがお客様を担当するようになり、改めて必要な知識の多さに悪戦苦闘しておりますが、機械販売商社は単純に工作機械を知っているだけではなく、周辺の付帯設備を含めたトータルソリューションができて初めて一人前なのだと日々痛感しております。必要な知識があまりに多く、入社した時に「一人前になるには10年かかる」と言われたことが理解できるようになりました。

そんな折、取引のあったスウェーデンのメーカーから、営業マンを3カ月インターンとして受け入れて欲しいとの依頼があり、販売経験のあった私が担当としてユーザーのフォローとPRで同行することになったのですが、私は英語がほとんど話せませんし、彼も多少の日本語が話せるだけなので、最初はコミュニケーションもまともに取れず大変苦労しました。当然お客様のところへ行っても身振り手振りや絵で説明をするしかなく、普段の倍は時間も掛かっていたと思います。しかし1ヵ月もすると、お互いの言葉にも慣れて（話せるようになったという意味ではありません。）様々な話ができるようになりました。スウェーデンのマーケットのこと、設備に対する考え方、外から見た日本の業界のこと、その中でヨーロッパでも日本のメーカーはメジャーで素晴らしいという話を聞いて、改めて世界に誇れる業界で仕事をしている事を誇らしく感じました。

またインターン終了間際には、これまでの苦労が実ったのか(?) テストの引合をもらう事ができ、いいかたちで終了を迎える事ができました。

インターンシップの3カ月間、彼には日本のマーケットやニーズを肌で感じてもらったと同時に、私自身も工作機械の周辺設備を勉強することができましたし、一部の地域ではありますが海外の業界の生の話を聞いて大変勉強になりました。ずっと同行PRをして回ったおかげでその製品のこともよく理解できましたし、工作機械とは異なる着眼点でお客様の設備を見ることができたので、少しですが視野も広がったのかなと思います。

今後はこの経験を活かしてメインの工作機械はもちろんのこと、周辺設備にも目を向け広い知識と視野を身に付けて深みのある提案営業ができる営業マンを目指して頑張りたいと思います。

『新撰組と海援隊の経営学』

伊藤 隆 著 (ダイヤモンド社)



釜屋 (株)
専務取締役

山本佳孝

NHK大河ドラマ『龍馬伝』で話題の坂本龍馬。龍馬といえば、皆様ご承知のように、幕末を代表する人物で、薩長同盟や大政奉還に大きな影響を与えた幕末の志士。しかし、近年では、龍馬を上記のような「政治家」イメージで捉えるのではなく、「ビジネスパーソン」の先駆けとしても注目が集まっています。

この著書の中でも、現在とさほど変わらない時代背景(政治的混乱、グローバル化に起因する内需混乱)の中、「ビジネスパーソン」としての海援隊(前身は亀山社中)を率いた龍馬が、どのように組織経営してきたかを、同時代を生きた新撰組と比較しながら、当時の組織(幕府、藩も含め)を現代企業組織に見立ててわかりやすく解説しています。

実は、私自身が地元で著者に師事している方であることもあり、掲載の選択に致しました。

この著書では、組織目的、戦略、組織機構、人材登用、コアスキル、運営スタイルなど、様々な角度からこの2つの組織を比較分析しています。

新撰組は従来の大企業風に、海援隊は欧米型企業風にと全く対照的ではありますが、それぞれにはっきりとした目的をもった組織が若者の手で作られています。いずれにしろ、今から130年も前に近代にも通ずる経営がされていたことが驚きです。

特徴の中で主には下記ようになります。

	新撰組	海援隊
①目的意識	武士としての立身出世 (大企業で重役まで上り詰める)	世界に飛び出して働くこと 独立、自由意志で働く、自立
②組織	縦型ラインスタッフ 近藤、土方による2トップ 厳格な規則でしぼる 主従ではないが階級あり	フラット型、トップを除き階級レス 意思決定過程で社員が討議に参加 主従はなくそれぞれが得意分野を有するパートナーシップ
③人材登用	体育会系、上司には絶対服従 金太郎飴の人材登用(社員は部品・歯車)	目的を持って自由意志で働ける者のみ求める 入社後にしてもらいたいことを明確にしてから採用 身分階級関係なし(学閥、出身も)
④教育訓練	剣術。最後の最後まで剣術にこだわる(武士になりたかった集団) 鉄砲など近代的戦法を学ぶチャンスはあったがあえて排除	多種多様。洋式艦船による航海技術を中心に法律、経済、砲術、数学、航海術、語学、国際法など 剣術は免許皆伝にありながら龍馬の頭になかった

どちらが優でどちらが劣ということではないが、著者自身は近藤勇の精神に通じるところがあるとしながらも、“現代に即しているのは海援隊型経営である”と記しています。

皆様はいかがでしょう？ 両方の組織に、参考にしたい部分が多く見受けられましたか。是非この著書をご覧頂き、自社の「経営維新像」の参考にしてください。

尚、締めくくりに、筆者は「成功体験からの脱却」にふれています。龍馬は北辰一刀流の免許皆伝という剣術のプロでありながら、短銃を持ち、最後は短銃をも捨て、万国公法を所持するようになります。過去に得た「成功」を相手にしていないことがうかがえます。一方、新撰組は、鉄砲大砲を主力とする近代的戦争になっても最後まで剣術にこだわった。武士になりたかった集団であり、また、武士として隆盛を経たため、その「成功体験」に最後まで引きずられました。

「維新」とは“これまでの成功体験を捨て、新しい成功を探すこと”としています。

我々工作機械業界も、メーカーの回復傾向を下支えする海外需要の回復とは裏腹に、国内需要は依然、くすぶりを続け、工作機械の内需で戦っております我々にとっては、先行き不透明な状況が続いております。

この状況の中、我々は「どこへ向かえば良いのか」を改めて考え直すときが来ています。今までつかみとってきた「成功体験」を、一度「洗濯」し、新たな価値を造り出せるよう奮闘しましょう。

SE教育

日工販SE合格者 第174回発表

今回は5月の合格者18名です。

認定No.	会社名	合格者名	認定No.	会社名	合格者名
10-18-2421	(株)森精機製作所	川口 英行	10-19-2430	三菱電機(株)	南出 恵太
10-19-2422	(株)兼松K G K	小松 謙吾	10-19-2431	三菱電機(株)	坪田 泰幸
10-19-2423	宮脇機械プラント(株)	小谷 一樹	10-19-2432	メルダシステムエンジニアリング(株)	内ヶ島良平
10-19-2424	宮脇機械プラント(株)	三村 吉弘	10-19-2433	メルダシステムエンジニアリング(株)	外川 雄一
10-19-2425	西川産業(株)	小澤 良行	10-19-2434	JA三井リース(株)	白須賀 豊
10-19-2426	西川産業(株)	山元 伸悟	10-19-2435	三菱UFJリース(株)	渡部 裕也
10-19-2427	西川産業(株)	永田 哲朗	10-19-2436	近畿総合リース(株)	西浦 昭憲
10-19-2428	西川産業(株)	大畑 勝久	10-19-2437	近畿総合リース(株)	阪本 建太
10-19-2429	オークマ(株)	山本 晶	10-19-2438	近畿総合リース(株)	足立 裕基

第85回 政策委員会

日 時：5月12日(水) 11:00~12:30

場 所：名古屋安保ホール 202号室

出席者：柴田委員長、政策委員8名、事務局1名

委員長挨拶：

私にとってははいよいよ本日が最後の 政策委員会となります。この一年間大変厳しい年でしたが、皆様のご協力によりお陰様で一年間無事に会長を務める事が出来ましたこと改めて御礼申し上げます。漸く経済も回復してきており工作機械受注総額については1月以降の受注増により2009年暦年と2009年度の間で1千億円以上の差がでました。4月の発表はまだですが順調に推移しているようで日工会が発表した6千5百億円はおそらく途中で上方修正されるのではないかと思います。今日は沢山の議題がありますのでご審議よろしくお願い致します。

議 題：

1) 総会の件

専務理事より：

- ①事業報告案の第一ページを読み上げ、以降会員数の異動まで説明。
- ②決算案の説明を行った。
- ③予算案の説明を行った。
- ④定款の改定案を説明。

1. 第5章総会及び理事会 第20条 3項の“表決権”を“議決権”とする。
2. 第9条、第10条、第12条、第20条改訂案については異議なし。
3. 第21条についても討議の結果、第20条と同様に代理人の扱いについて規定するように理事会に提案することとなった。
尚、柴田会長は総会で退任されるので記念

式典で会長表彰は行わず、例年通り総会時に会長表彰を行う。

2) 会長、東部地区委員長推薦

会長については双日マシナリー(株)長久保会長にお願いすることで理事会に諮る。また東部地区委員長については坂田委員長が6月に(株)兼松K G K社長を退任されることになったので後任の東部地区委員長に丸紅トッキ・インダストリー(株)副社長、角田理事にお願いする。尚、会社の社長を退任される時、会長の任期中で後任を互選という事態は過去にもあり今後も有り得るので任期を全うしていただく為の特別ルールを考えたかどうかの提案があり理事会で討議することにした。

3) 40周年記念

- ①専務理事より経済産業省製造産業局局長表彰申請状況を説明。10年前に比べ審査が厳しくなり貢献についても具体的且つ定量的な記述を求められ、さらに役員として原則15年という就任期間を求められている。
- ②式典での会長表彰受賞者の報告は行わない。今回はたまたま式典と総会が重なった訳であり、もし式典で報告するとすれば、これまでの総会での会長表彰受賞者も報告しなければならない。

第226回 定例理事会

日 時：5月12日(水) 13:00 ~ 15:30

場 所：安保ホール 601号室

出席者：柴田会長、副会長3名、専務理事、理事15名、監事1名、事務局1名

会長挨拶：

工作機械の状況としては結構回復してきたのではないかと思います。3月も700億円超えと

のことで、2009年暦年が4100億円だったわけですが、2009年度が1200億円上積みされており5300億円ということで、1、2、3月で1200億円昨年同3カ月を上回っており、日工会としては6500億円という数字を目標としてあげておりましたが、おそらく上方修正があるのではと思っています。ただ、中身を見ますと完全に輸出に頼っているという状況で内需は相変わらず200億円を超えるか超えないかというところで、内需が何とか早く立ち直ってほしいと思う次第です。リーマン・ショック前に戻ってほしいと思いますが、直近の総受注額としては700億円、800億円という数字になってきておりますので、このまま行けば8000億円という数字になるのではと思っております。またIT関係とかLED、液晶関係が相当活発になってきているのではないかと考えておりますのでこれからを期待したいと思っております。本日は40周年記念事業等を含めた議案もありますので、よろしくご審議の程お願いいたします。

議 題：

【付議事項】

1) 総会議案の件

①平成21年度事業報告案と決算案について(案)

平成21年度事業報告書

第一ページの事業報告書(案)は三つのパートに分かれており、第一のパートは日本経済推移、第二のパートは工作機械受注推移、第三のパートは各事業報告の総括となっております。内容の確認を行った。

一般会計)

収入：月別会費は臨時総会にて後期分を請求しないこと決定し予算通り。教育事業からの繰入あり。

支出：事業補助費が予算を大幅に残したので支出額は予算を下回った。

収支差額：予算に比べマイナスが改善された。

教育事業特別会計)

収入：受講生数はほぼ目標通りであったが、SE講座一般コースに比べ半分ほどの受講料である入社7年目以上の特別認定コース受講生が多かったので受講料収入は減少した。

支出：通信講座テキスト印刷費関係の内製化が進み製作コストが下がり支出減。

収支差額：予算に比べマイナス大幅に改善された。

審議の結果、平成21年度決算案は承認された。

②平成22年度事業計画案について

内容については前回の理事会で承認済み。字句の訂正として(9)SE集合をSE講座集合、通信講座を通信教育、更新研修講座を更新研修に訂正。

③平成22年度予算案について

一般会計)

収入：月別会費は昨年度に引き続き半額。

正会員1社減、副会員1社減により昨年度決算比減となる。

支出：事業補助費が増加し昨年度決算対比増。

収支差額：昨年度決算比マイナス増となる。

教育事業特別会計)

収入：既に募集を締め切った基礎講座受講生数は昨年度比6割減、SE講座、更新研修は昨年並みとして昨年度比収入減となる。

支出：昨年度決算対比若干の減。

収支差額：昨年度決算対比大幅なマイナス増なる見込み。

審議の結果、平成22年度予算案は承認された。

④定款の一部改訂について

富田総務委員長より改訂案について説明。

1. 会員代表者に関する規定について第3章第9条に第3項として追加。

2. 総会に関する第5章第20条に第2項—4項追加し議決権行使を明確化。
3. 理事会に関する規定第5章21条に代理人に関する規定を追加。
4. この機会に文字の統一化。
審議の結果、承認され総会に諮ることになった。

2) 創立40周年記念事業について

スケジュールの確認を行った。

- 総会 12:30~13:30
 式典 13:50~14:40
 講演会 15:00~16:10
 演題 「構造変化の進む世界経済」
 祝賀会 16:30~18:00

40周年記念行事予算について：

グランドアーク半蔵門からの見積りに対し価格交渉を行い且つ内容の見直しを行った結果、ほぼ積立金の予算額となりこれを40周年記念行事の予算として承認された。

3) 会長、東部委員長候補推薦の件

① 会長候補について

柴田会長は6月の定時株主総会をもって三菱商事テクノス(株)取締役社長を退任され理事は後任者に引き継ぐこととなり、柴田会長の会長として双日マシナリー(株)会長の長久保敏氏を推薦することで承認された。

② 東部地区委員長について

坂田委員長はこの6月の定時株主総会をもって(株)兼松KGK取締役社長を退任されることになり、後任として丸紅トッキ・インダストリーズ(株)代表取締役副社長の角田理事が承認された。

[報告事項]

1) 流通動態調査、日工会・工作機械短期受注観測調査

流通動態調査平成22年3月結果報告と日工会の短期受注観測調査21年1~22年4月までの報告説明があった。日工会短観も全体的

にかなり良くなっており特にアジア向けは受注水準の伸びが目覚ましい。

2) 正会員退会の件

東部地区正会員(株)高橋機械退会(4月1日)

3) 委員会報告

① 中部地区正副会員・リース賛助会員懇談会

高田委員長欠席のため日工販ニュース4月号に要旨が掲載されておりこれを参照頂く。

② 西部地区報告会員懇談会

赤澤委員長より報告：3月11日会員懇談会を開催、正会員・賛助会員併せ40名の方が出席。懇談会において現況報告と各社の今後見通し等について情報交換を行なった。引き続き懇親会を開催。

4) その他

メカトロテックジャパンについて

専務理事より報告。4月末に名古屋国際見本市委員会の来訪あり「メカトロテックジャパン」は2009年10月の開催を最後に来年からは「新たな産業見市」として2010年10月19日~22日に仮称「次世代ものづくり基盤技術産業展」の開催する旨説明があった。一方、(株)ニュースダイジェスト(ND)社黒田社長と愛知県機械工具商共同組合野田理事長連名の書信によれば「メカトロテックジャパン」は2011年展からND社主催、愛機工組合共催で新たにスタートすることのこと。

[情報交換]

- A：ここにきて3月、4月位から産業メカトロニクス関係がかなり活発になってきた。それと結晶、LED、IT関係の引き合いが非常に活発になっている。
- B：金型とそれに絡む精密部品関係では、昨年秋位から大手メーカーは半導体、電子部品、LED、コネクタの関係が満杯の状況で、どうしても社内に持ち込むという傾向が多かったが、今年の2月位から仕事は社外に出るようになってきた。
- C：半導体関連と中国関連だけがリーマン・ショックの前の状況に戻ったが自動車に関連している様などころは残念ながら未だに停滞しているのが現状。一時言われた787やMRJの関係で飛行

機部品関連が忙しくなると言われていたが掛け声だけでなかなか設備の増強までには至っていない。

- D: 工作機械関係は世の中の動きより半年位遅れて落ちてきて、受注は2008年度のリーマン・ショック時にはそれ程落ちずに一番の底が2009年度の上期で、決算的にも一番厳しかったのが2009年度。今年度上期も厳しい状況。顧客の半分位自動車関係で自動車、飛行機も戻らないという事で苦戦している。
- E: 金型と機械加工部品関連が主な顧客で、国内の受注が一向に増えず、顧客も中国、台湾に工場がある場合は日本で設備投資をしなくても良いという傾向が強くなり、日本で設備投資が本当に始まるのかというのが大きな懸念事項で今期が一番厳しいと捉えている。
- F: 工作機械の分野では、ハードディスクドライブの関係がテレビ、パソコン、車のナビ等メモリ用を搭載するのでものすごい増産となっている。忙しい分野として中国で特にバッテリーの関係が中国でも電気自動車への動きが活発なので引き合いも非常に多い。中国も品質の良いものは日本のメーカーのものを買うという動きになっている。特に自動車のパワー系は、日本の電池メーカーの技術、組み立てラインが良いという事だと思う。この分野は非常に活況を呈しております。また家電の冷蔵庫がすごく売れており各社とも冷蔵庫の増産計画は日本のメーカーだけでなく小型から大型まで非常に強気です。苦戦しているのは自動車関連で名古屋に支店があるが売り上げも4分の1位に下がってしまい名古屋だけを見れば赤字という状況。
- G: 4月にフランスのパリで炭素繊維の展示会があり、当社も工業炉関係で出品したが大変な活況だった。もちろんエアバスとか飛行機の大手会社等もたくさん出ていたが、将来のビジネスの一つのネタにと期待したい。A社の長春工場の話ではミッション、エンジン系もあるので機械加工も出てくると思うが、全部現地調達という方針で中国の工作機械メーカーを徹底的に探せという指令も出てくるのではと思われ、一方品質は日本で作ったものと同じものを求めるという要求があるのではと想定している。電子関係でチップマウンタの販売代理店を国内でやっており昨年度は減茶苦茶だったが今年は自動車関連でもようやく動きが見え引き合いになってきたのが明るい話。
- H: 商売全体で見ると少しまずいなという印象を持ったのが、今まで6:4で輸出といていたのが結果的に件数で言うと1:9となり輸出が9となっている。国内で注文はとっているが、機械を持って行く先で評価すると9になった。受注も台数が上がってくるにつれて利益率が落ちてくるという状況で、結果一枚単位の伝票を見ますと似たような利益しか出ていない。小型の機械は生産能力も絞っていたので供給不足が起っており、顧客の要求に対して対応出来ているのは半分か3分の1位となっている。
- I: 切削工具が主力で昨年5月が底ですと赤字続きだったが下期はプラスマイナスゼロだった。3月、4月と大分回復してきて対昨年で言うと4割少し回復してきた。全国を見ると北関東がF社の関係もあり一番良い。中部地区もそんなに悪くはなくユーザーの格差も出てきて自動車関連でも忙しいところもあり航空機関連でも引き合いが出てきており、そういったところに絡む商品がバルブ期以上に発注が出てきているところが数多く出てきている。切削工具メーカーも質の関係で工場は増産で目一杯であり、かなり人を削減した関係で生産能力が落ちている上に発注が出てきて納期が1、2カ月だったのが3カ月となり品不足の状況になっている。今年1年大分回復する様な感じで見ており、そんなに生産は悪くないのではと見ている。
- J: 当社の1番の顧客もH社ではなくF社になっていると思う。25年ぶりに開発した新しいエンジンを月45,000~46,000台のペースまで持っていくため第一ステップ、第二ステップ、第三ステップという形で設備投資をされ今第二ステップで、第一ステップで本当に利益の出ない受注だったのが、第二ステップではリピートでいいから2桁以上15~20%程更にコストダウンしてくれという事で価格的には非常に厳しい状態が続いているが、何とかメーカーと協力し合いながら、それでも受注しなければとやっている状況。そういったものに牽引されて設備だけではなく周辺の工具、ホルダー等いろいろ出てきて北関東は確かに動いているという状況。
- K: 受注の推移を見ると昨年の1月、3月が一番底で、それから徐々に上向いてきて6月、7月頃は横ばいで12月頃から商談が増えてきて3月がこの1年でみると一番多かった。4月がその反動で落ちるかと思ったが意外に4月も3月と遜色ない受注となりこのまま行けばという感じがしている。受注の中身を見ると業界の善し悪しではなく自動車関連でも良いところがあり顧客による。ただ受注が上がる毎に利益率が下がってくるのが一番の問題で非常に価格が厳しくなっている。大手メーカーも廉価版というシリーズを出されて価格で勝負できるような機種を開発されているが、そうなるも益々利益率が取りづらくなる。

- L: 3月期の決算で、16年ぶりに赤字に転落したが赤字幅は努力し少なめになった。現状を見ると68%が車の関係なので中部地区の落ち込みが昨年は非常に厳しかった事が言える。関東ではある車の関係の案件で受注したが利益が非常に少なく参っている。競争も非常に厳しくなっており好転機運の上昇時には止むえない現象かと思っており大事な顧客については利益が少なくても取って来るという方針にしている。インドについては大型案件が出ており、競合になっているが何としても取っていききたい。相対的にみると4月から若干受注は増えてきており、売り上げは下期に入るので今期の決算はなんとしても黒字化にしていきたいと考えている。
- M: 今月が決算で大きな落ち込みがあった割には何とかスレスレで推移している状況。皆様4、5、6月と良くなっているとの事だが当社は一向に良くなっていない状況で不安が残る。国内は良くならないのではと思う。確かに自動車メーカーも若干設備投資もあるが、購入価格が大変厳しくメーカーがリピートと言ってきたら断てくるのではないかと思う。国内はおそらく今年1年はそんなに伸びてこないだろうという感覚を持っている。
- N: T社系の自動車関係なので最悪の状況で、前期に比べて設備投資が全然ない。生産自体が3月まで好調だったので、1、2、3月の工具の方の売上はプラスだった。予備品の購入も1、2、3月は良かったが、4月から先には予備品はいらないということになる。4月は何とか受注が取れて3月に比べれば売上もそこそこだが、今月はどうかという状況で、この半期は綱渡りのような状態になっていく感じがする。設備自体の話は分野は限られており徐々にだが少しは出てきているが、量は少なく価格は各メーカーとの競合の中で叩き合いの状況で推移しており利益は期待出来ない状況。
- O: 全くひどい状況が続いている。当地区は2輪が主体で特にB社関係は壊滅的な打撃を受けて本当に今まで経験したことがないような状況。従って我々以上に顧客のところ事が非常に重大になっている。唯一の救いは力のあるところはインド、インドネシア、中国を中心にした東南アジア向けの生産は今まで経験したことが無いような活況になっている。C社がその中でもある程度やっているが、独W社との提携から計画が皆ストップした状態で、ある程度方向性が出るかなと期待していたらこれも延期とのこと。赤字体質が15か月くらい続いており、おそらくここにおられる方の中では一番悪いかも知れない。我々の業界も大変であるが、ある意味で復元でき
- る自立できる体制をもう一度見直す時が来たのかという感じで悠長に聞こえるがそんなふうに思う。
- P: 当地区は先ほどから言われているようにA社の生産は2、3月は割りと高く月当たり15000台位で走ってきた。1次下請けは相当戻ってきているが2次、3次になるにしたがって戻り率が悪くなっており、多分落ち込む前の終わり位までしか戻っていないのではと思う。このことは工具にはっきりと現われ、2月、3月戻って4月は良くない。一番頭が痛いのは中国向け工具の国内在庫がショートしており日本中からかき集めるのが仕事みたいなもので顧客は大変怒っている。こういう現象はコントローラー供給の世界でも起きているのではと思う。今年については良いことが起きる環境にはないと思うので、暫く厳しい時期を生き抜かなければならない。
- Q: 昨年の1月~3月が一番の底で、暫く横ばいが続き昨年12月位から若干上向きかげんとなり今年に入って顕著に上向いてきたという状況。電子部品、コネクタ関係、精密射出成形関係というところが急に動き出した。中古機械の方もリーマン・ショック以降全く止まっており、倒産、廃業等の売り物が多く供給過多の状況だったが、これも新型機と時を同じくして中古機械の引き合いが今年に入り相当来ている。ただし、メーカー指定、型式指定、年数指定、値段指定で、非常に範囲の狭い引き合いで、それを如何に供給していくかが鍵となっているが、一時の惨憺たる状況からは脱して光があるだけましかなという気分になっている。
- R: 3月期の決算については、所属する生産材部門は赤字だったが、消費材部門が大きな黒字で全体としては僅かな黒字となった。4月の受注状況は良くない。日本国の借金が883兆円とかで、800兆とすれば1日100億円返していくと22年かかる訳でそれ程大きな借金を抱えている日本国の行方がどうなるかが大事。
- S: ようやくトントン迄は行かないが微妙なところまで来たかなという状況。中小の顧客が殆どで先行きあまり読めないが、こうした状況が数年は続くのではと思っている。当社も中古機械とか射出成形機などで何とか繋いでいこうと思っている。ベトナムとか中国関係の仕事をしている顧客は忙しくそういうところから多少買っていたかき何とかぎりぎり生活をしている状況。
- T: 国内の方は1月頃から若干引合いが出てきたかと思っていたら、中身は大体アジア地区の子会社に対する設備関連の仕事が多い。ここに来て若干建機関連の下請企業から国内での設備投資の話が出てきている。確かに国内はなかなか

厳しく当分の間そんなには回復しないと思うので、マーケットのあるところに出なくてはいけないという事で特にアジア地区に注力している。東南アジアでは日系オートバイメーカーの下請先とのビジネスで、アルミダイキャストの加工が多く簡単な機械でできるので、なかなかマージンが取れない。北米は自動車関連先をやっているが大分回復してきた。ヨーロッパはイギリスがあるが何とかギリギリのところまで回復はしてきたかなという感じ。日本がまだまだ悪いのと中国も思った程伸びていない状況。

第106回 調査広報委員会

日 時：5月20日(木) 12:30~15:00

場 所：機械工具会館 5階

出席者：田尻委員長、委員7名、事務局2名

委員長挨拶：

日工会の受注確報ですが、内需は222億円、外需が586億円となり総額は808億円という事で対前年比3倍となりますが、内需は前月比についても15%上昇ということで傾向としては確かに良いかなと思うところであります。一方、日工販の6カ月先の受注見通しを見ますと少し温度差がそれぞれ業界別にあり、電気、通信、IT分野が6カ月先で相当良くなるというのが6割位で、半導体関係も従来同様に良く、金型は良くなっていると言うものの全体の感触としてはまだら模様になっておりますが、少し動き出したのかなという気がしております。それでは委員会を進めたいと思いますのでよろしくをお願いします。

議 題：

1) 調査広報委員会平成21年度決算及び平成22年度予算

平成21年度決算)

ほぼ予算通り推移し、広告掲載については時節柄不安があったが掲載会社各社の協力を

得て予算通りの収入となった。名簿作成は内製によるコスト減もあり予算を残す結果となった。

平成22年度予算案)

前年度決算の内容に加え日工販創立40周年記念特別号(10月号)、特別号用会長経験者座談会、JIMTOF 座談会費用、日工販パンフレット更新などの費用を計上し平成22年度予算は対前年度比12%UPにて予算を作成。以上5月12日理事会で承認され6月9日の総会に諮る。

2) 日工販ニュース

- ①表紙については、4月号より新しい表紙となったが、全体的にはっきりとしないため5月号より一部デザインを変更した。
- ②広告の掲載依頼先を決定。
- ③メーカーインタビュー先の決定。取材交通費節約のため取材先のJIMTOF 訪問の機会をとらえ取材することにし、掲載を1, 2, 3月号とする。

3) 新企画

日刊工業新聞、日本物流新聞にコラムを書いている賛助会員日工販担当“さかい三十郎氏(筆名)”より日工販ニュースへの寄稿があった。検討の結果、隔月で寄稿頂くことにして版權について事前に確認しておく。

4) 創立40周年記念特集号

座談会のみでは特集号としては物足りないもので、調査広報委員会より創立40年を意識し40歳前後(アラフォー)の社員の方に、テーマの中から選定いただき寄稿(1ページ1社)いただくこととした。テーマは検討結果、「工作機械販売会社のこれからのあるべき姿」、「地球環境問題」、「私の挑戦」、その他「自由課題」とし、1200文字で8月末迄に寄稿をお願いする。

5) JIMTOF 座談会

期間中会場にて11月2日15時より調査広報委員会メンバー中心にて開催予定。

統

計

資

料

工作機械・FA流通動態調査 1

統計1

単位百万円

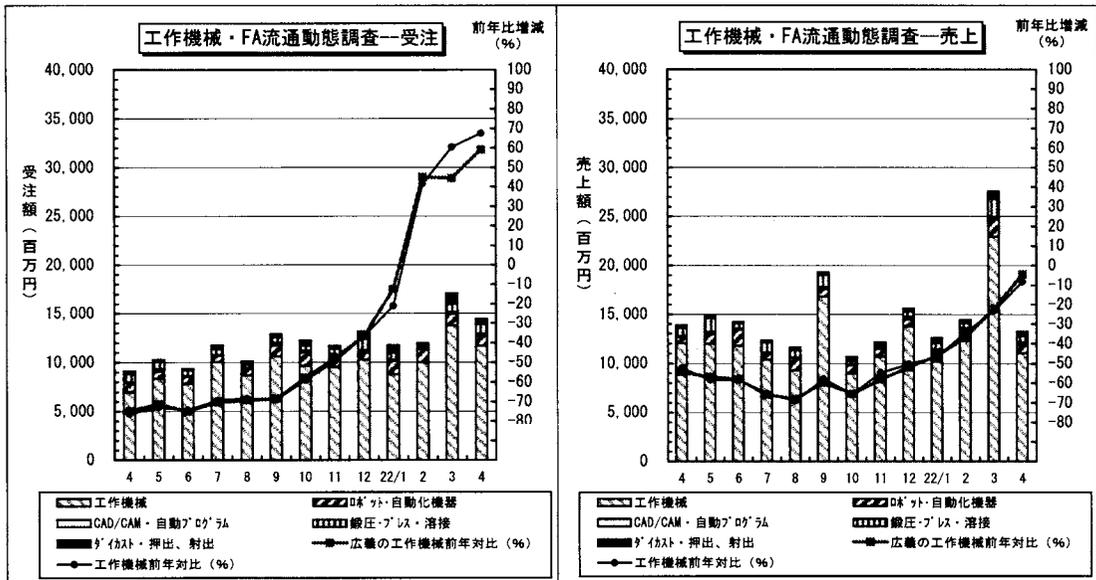
39社合計 調査月次		受 注				売 上					
		22/4	前月比	前年比	22/1-22/4	前年比	22/4	前月比	前年比	22/1-22/4	前年比
広義の 工作 機械	工作機械	11,682	-15.1%	67.5%	44,219	31.1%	11,022	-52.0%	-8.3%	56,364	-29.3%
	ロボット・自動化機器	1,047	-12.8%	12.3%	4,954	14.4%	863	-52.7%	38.3%	5,077	-23.3%
	CAD/CAM・自動プログラム	146	-8.3%	97.3%	523	49.9%	263	54.9%	216.4%	658	35.1%
	鍛圧・プレス・溶接	1,031	25.0%	24.5%	2,733	-12.5%	609	-67.3%	-28.0%	3,554	-50.8%
	ダイカスト・押出、射出	538	-53.0%	101.5%	2,809	174.9%	468	-39.1%	69.6%	2,167	52.6%
小計		14,444	-15.4%	59.1%	55,238	29.8%	13,225	-52.0%	-4.5%	67,820	-28.9%
工作機械以外の扱い商品		9,567	-17.1%	66.3%	35,866	18.1%	6,942	-46.6%	-0.3%	34,773	-6.1%
合計		24,011	-16.1%	61.9%	91,104	24.9%	20,167	-50.3%	-3.1%	102,593	-22.6%
従業員数		1,327	-1.1%	-2.3%							

統計2

単位百万円

30社合計 調査月次		受 注				売 上					
		22/4	前月比	前年比	22/1-22/4	前年比	22/4	前月比	前年比	22/1-22/4	前年比
内 訳	直販 (内リース)	9,741	-23.3%	49.1%	38,895	20.9%	7,965	-47.7%	-5.4%	39,203	-33.9%
	卸	779	-32.3%	106.0%	2,507	9.6%	674	-32.9%	-4.3%	2,805	-40.7%
	輸入	3,898	-4.8%	141.1%	13,907	117.1%	4,414	-24.2%	31.2%	17,399	-14.2%
	輸出 (内間接輸出)	274	-353.7%	-57.7%	432	-83.0%	34	-98.2%	-93.0%	3,000	44.4%
		3,034	-6.4%	297.1%	11,234	137.3%	2,785	-30.2%	-50.3%	11,039	-21.9%
従業員数		400	44.9%	87.8%	1,349	156.0%	298	-50.2%	-46.8%	1,268	-28.1%
従業員数		994	-0.8%	0.1%							

注：本調査は、20年4月より集計対象会員を見直し、前年分も集計し直した数値と比較した。
 会員70社中統計1に関しては39社、統計2に関しては30社の回答を得て集計したものである。
 折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
 参考までに今月のデータ提供会社総数は43社である。



工作機械業種別受注額(2010年4月)

5月18日発表

(単位:百万円、%)

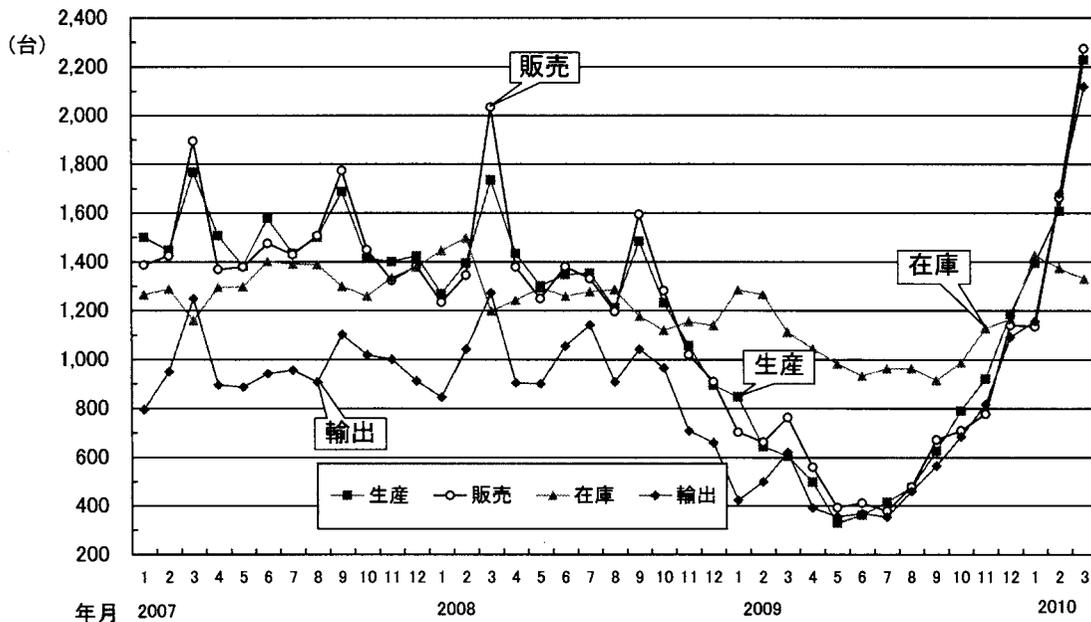
需要業種	期間	2009年	2010年	前期比	前年同期比	2010年 1~4月 累計	4月分	前月比	前年同月比
		10~12月 累計	1~3月 累計						
機械製造業	1. 鉄鋼・非鉄金属	4,054	1,116	81.9	243.1	1,588	472	111.6	-
	2. 金属製品	6,555	2,055	93.8	146.4	2,776	721	64.8	144.2
	3. 一般機械 (内金型)	68,911	20,960	113.8	161.8	30,625	9,665	128.9	211.7
	4. 自動車 (内自動車部品)	11,628	3,455	116.9	181.2	4,544	1,089	74.5	81.0
	5. 自動車 機械	33,862	16,354	149.5	564.9	22,291	5,937	111.3	203.3
	6. 精密機械	16,974	11,319	153.3	2455.3	15,492	4,173	119.5	1010.4
	5~6. 電気・精密計	12,488	3,135	87.7	143.8	4,774	1,639	147.5	419.2
	7. 航空機・造船・運送用機械	7,666	4,127	155.1	315.8	5,643	1,516	96.1	228.0
	3~7. 小計	20,154	7,262	116.5	208.3	10,417	3,155	117.4	298.8
	8. その他製造業	11,183	1,937	66.7	134.7	2,907	970	300.3	44.2
	9. 官公需・学校	134,110	46,513	120.8	223.9	66,240	19,727	124.5	183.8
	10. その他需要部門	5,207	2,736	151.0	442.0	3,522	786	62.3	123.4
11. 商社・代理店	4,698	715	20.9	123.5	792	77	59.2	118.5	
1~11. 内需合計	3,471	1,057	93.9	109.3	1,377	320	87.2	222.2	
12. 外需	1,553	395	143.1	93.4	492	97	65.1	83.6	
1~12. 受注累計 (内NC機)	159,648	54,587	112.1	216.4	76,787	22,200	115.1	182.1	
	252,161	141,146	133.4	401.3	199,771	58,625	103.7	451.2	
	411,809	195,733	126.7	324.1	276,558	80,825	106.6	320.9	
	392,559	186,790	127.0	329.3	264,581	77,791	107.2	324.3	
販売額	596,920	187,685	149.3	82.3	244,226	56,541	61.4	144.9	
(内NC機)	576,381	178,369	147.0	81.0	233,025	54,656	62.6	144.1	
受注残高	382,592	391,021	102.2	96.1	415,848	415,848	106.3	105.8	
(内NC機)	354,272	363,029	102.5	95.5	386,682	386,682	106.5	105.6	

(注) その他製造業…… 楽器、皮革製品等の製造業

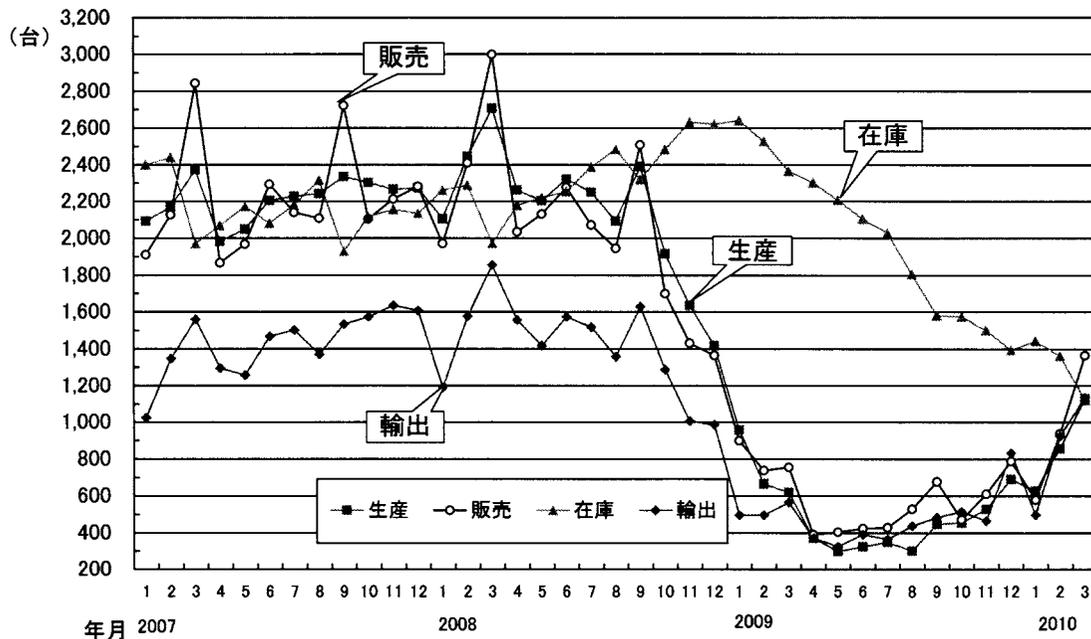
出所:(社)日本工作機械工業会

見てわかる 3年間の代表2機種トレンド

マシニングセンタ動向



NC旋盤動向



ジャカルタ雑感 ～海外赴任の勧め



(株)ナチ常盤
執行役員
岩崎 淳

5月の連休を利用して友人と二人でインドネシアのジャカルタに旅行して来た。旅行と言っても観光ではなく、旧友との再会とゴルフが目的。友人も私もジャカルタに赴任経験があり、毎年旧友達は温かく私達を‘仲間’として迎えてくれる。‘仲間’の意識は現地で種々のストレス（治安、現地スタッフや運転手との意思疎通、交通渋滞、下痢や伝染病への不安等々）を経験した‘同じ釜の飯を食った’仲間意識だと思う。

今回一年振りの訪問で感じた大きな変化は ①スマートフォンの普及。ノキア、サムスンを押しのけブラックベリーを愛用しているビジネスマンが多いこと。②薄型テレビの普及。ホテル、ゴルフ場のレストランも薄型テレビに変わっていた。③リーマン・ショック後の景気回復の速さ。

二輪・四輪部品メーカーの友人からの話では2008年10月から急激に落ち込んだ二輪の販売台数は2009年5月を底に急回復しているとのこと。二輪車全体の販売台数は2008年634万台から2009年583万台と減少しているが、リーマン・ショック後の2008年10月から2009年3月までの6ヵ月間の日系3社（ホンダ・ヤマハ・スズキ）の販売台数は260万台、直近の2009年10月から2010年3月までの6ヵ月間の販売台数は332万台と6ヵ月間の販売台数では過去最高を記録している。特筆すべきは市場のシェアをホンダと二分するヤマハが2008年40%のシェアを2009年45%と伸ばしていること。ヤマハが市場投入したスクーターが運転のし易さから女性の購買層を開拓している。シェア46%のホンダも2011年までにスクーターを中心に60万台増の年間生産能力360万台を計画中。四輪車全体の販売状況も同様の伸びと聞く。又、現地に進出し製品のほぼ全量を日本に輸出していた企業は長引く日本の不況の波を受け大幅な減産を強いられたと聞く。その企業も現地企業へ営業開拓し一年前とは雲泥の明るさだった。

スマートフォン、薄型テレビ、スクーター等の急速な普及を目の当たりにし、先日聞いた某企業経営者の言葉を思い出す。

「時代の求める商品の姿をいち早く察し、適切なタイミングで一番に具現化できる力が企業の独自性と存在価値を創造する。先見性を持ち、急な環境変化に柔軟に対応できることが新たな価値を創造し、進化の原動力になる。‘今まで通り’が通用しない新時代の到来はスピード感ある創造力によって進化できるチャンス」

生産財の販売に携わる私達はこのような状況に商売としてどの様にかかわって行くか……。

私は既に50代後半ですが、工作機販売に携わる営業マンに機会があれば海外赴任する事をお勧めします。冒頭でも触れた様にアジアでの赴任生活は多くのストレスを伴いますが、視野を広め、コミュニケーション能力を養う良い機会です。私はジャカルタ赴任中にローカルスタッフや運転手との意思疎通で沢山のストレスを感じていました。日本に居たら日本人同士で何不自由なくコミュニケーションできると。しかし、どこまで社内で、取引先で自由にコミュニケーションしているかは疑問です。意思疎通を図る事は言葉の壁、生活習慣、宗教の違いも勿論有りますが、自らの意思を持って相手の心に働きかけることだと思えます。現地の言葉は一年滞在すれば生活に不自由しない程度は話せる様になります。海外在住の日本人は貴方を温かく迎えてくれます。

さあ！ 行きましょう！ 「日本の内需は中国・アジア」にあるのですから！

会員・業界消息

関連団体……(株)日本ロボット工業会 会長 稲葉善治 (5月18日)
代表者変更……中部地区正会員 岡谷機販(株) 取締役社長 植田誠次
窓口変更……東部地区正会員 伊藤忠マシンテクノス(株) 取締役 丹波 優

行事予定

中部地区正・副会員懇談会	6月14日(月)	(株)井高 会議室
SE教育基礎講座	6月24～26日(木～土)	日本工業大学
西部地区正・副会員懇談会	6月30日(水)	りき六
政策委員会・定例理事会	7月7日(水)	機械工具会館
政策委員会・定例理事会	9月8日(水)	大阪産業創造館
SE講座 名古屋	10月7～9日(木～土)	I.M.Yビル
SE講座 東京	10月14～16日(木～土)	機械工具会館
SE講座 大阪	10月21～23日(木～土)	新梅田研修センター
更新研修、必修・特別講座 東京	11月12・13日(金・土)	機械工具会館
更新研修、必修・特別講座 名古屋	11月19・20日(金・土)	I.M.Yビル

展示会

次世代自動車産業展2010 A-NEXT2010	平成22年6月16日(水)～6月18日(金)	東京ビッグサイト
第50回西日本総合機械展	平成22年6月24日(木)～6月26日(土)	西日本総合展示場新館(北九州市小倉区)
難加工技術展2010	平成22年7月7日(水)～7月9日(金)	東京ビッグサイト
ROBOTECH 次世代ロボット製造技術展	平成22年7月28日(水)～7月30日(金)	東京ビッグサイト
第21回マイクロマシン / MEMS展	平成22年7月28日(水)～7月30日(金)	東京ビッグサイト
第15回マシンツールフェアOTA2010	平成22年9月8日(水)～9月10日(金)	大田区産業プラザ
IMTS (International Manufacturing Technology Show)	平成22年9月13日(月)～9月18日(土)	McCormick Place, Chicago
JIMTOF2010 第25回日本国際工作機械見本市	平成22年10月28日(木)～11月2日(火)	東京ビッグサイト
Metalworking and CNC Machine Tool Show 2010	平成22年11月9日(火)～11月13日(日)	上海新国際展覽センター

編集後記

- 6月号をお届けします。6月1日は衣替えの日と言われていましたが、この頃は地球温暖化のせいか季節の変わり目でなくても気温に合わせて衣替えをするようになりこの習慣は徐々に変化してきているようです。それでも和服だけはこの習慣が守られており6月になると単衣（ひとえ、裏地がついていない）を着て、10月になると袷（あわせ、裏地がついている）を着るきまりになっています。この衣替えの習慣は宮中の行事から始まったそうですが6月1日と10月1日を衣替えの日となったのは明治以降で、学校、官公庁、銀行など制服を着用するところでは現在もほとんどがこの日に衣替えが行われ、学校の制服や警察官の制服が一斉に変わるのを見て季節を感じたものです。
- 6月は経営トップの交代時期でもあります。特に信越化学工業(株)の社長交代発表には目を引かれました。2008年3月期まで13年連続で連結純利益の過去最高を記録するなど経営手腕を高く評価されていたカリスマ経営者である金川千尋氏が約20年務めてきた社長を森俊三副社長に引き継ぐとの発表ですが、驚かされたのは84歳の金川氏から72歳の森氏へのバトンタッチです。84歳まで激務をこなされたのもすごい事ですが、一般的には会社生活から引退をして趣味などで余生を過ごそうかと思う72歳でこれから激務が始まるというのですから相当体力に自信を持たれているのではないかと思います。しかも記者会見で金川氏は「環境変化に対応し競争を勝ち抜くために今回の人事を決めた」と説明し、森氏は「新しい事業にも取り組んで会社を大きく伸ばしたい」と語ったとの事ですが、両氏の気力溢れ意欲に満ちた発言には脱帽です。
- 日工会より4月の受注確報が発表されましたが、18カ月振りにリーマン・ショック直後の2008年10月の受注レベルである800億円台に戻ってきました。内需については222億円と漸く200億円レベルに戻ってきたことは緩やかですが回復基調に入ってきたと思われます。

「日工販ニュース」 Vol.22—No.06

平成22年6月15日発行

発行	日本工作機械販売協会 〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階 電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879
発行責任者	専務理事 宇佐美 浩
編集	日工販調査広報委員会 委員長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (五十音順)

平成22年6月1日現在

正会員(全70社)

〔東部地区(34社)〕

(株) 旭 商 工 社
伊藤忠マシテクノス(株)
今井機械工業(株)
大石機械(株)
(株) カ ナ デ ン
(株)カネコ・コーポレーション
(株) 兼 松 K G K
(株) 京 二
(株) 共 和 工 機
群馬工機(株)
(株) 国 興
(株) 三 機 商 会
三洋マシン(株)
サンワ産業(株)
シマモト技研(株)
住友商事マシネックス(株)
(株) セイロジャパン
誠和エンジニアリング(株)
双日マシナリー(株)
太 平 興 業 (株)
帝通エンヂニヤリング(株)
(株) テ ヅ カ
(株) T E M C O
(株) ト ミ タ
(株) N a i T O
(株) ナ 子 常 盤
日鋼商事(株)
藤田総合機器(株)
丸紅トッキ・インダストリーズ(株)
三井物産マシテック(株)
三菱商事テクノス(株)
(株) ヤ マ モ リ
ユアサ商事(株)
米 沢 工 機 (株)

〔中部地区(20社)〕

石 原 商 事 (株)
(株) 井 高
岡 谷 機 販 (株)
力 一 機 械 (株)
釜 屋 (株)
岐 阜 機 械 商 事 (株)
甲 信 商 事 (株)
三 栄 商 事 (株)
三 機 商 事 (株)
サ ン コ 一 商 事 (株)
三 立 興 産 (株)
下 野 機 械 (株)

(株) 大 成
(株) 大 誠
(株) 東 陽
(株) 日 本 精 機 商 会
浜 松 貿 易 (株)
(株) 不 二
山 下 機 械 (株)
ワ シ ノ 商 事 (株)

〔西部地区(16社)〕

赤 澤 機 械 (株)
伊 吹 産 業 (株)
植 田 機 械 (株)
(株) お じ ま
関 西 機 械 (株)
京 華 産 業 (株)
五 誠 機 械 産 業 (株)
桜 井 機 械 (株)
(株) ジ ー ネ ッ ト
大 幸 産 業 (株)
(株) 立 花 エ レ テ ッ ク
西 川 産 業 (株)
日 本 産 商 (株)
マルカキカイ(株)
宮脇機械プラント(株)
(株) 山 善

賛助会員(全68社)

〔製造業(52社)〕

(株)アマダマシンツール
(株) エ グ ロ
エヌティーツール(株)
(株)MSTコーポレーション
エンシュウ(株)
オーエスジー(株)
オークマ(株)
大 阪 機 工 (株)
(株)岡本工作機械製作所
(株)神崎高級工機製作所
(株)北川鉄工所
キタムラ機械(株)
キャムタス(株)
黒 田 精 工 (株)
コ マ ッ N T C (株)
(株) C & G シ ス テ ム ズ
(株) ジ ェ イ テ ク ト
(株)シギヤ精機製作所
新 日 本 工 機 (株)
住友電工ハードメタル(株)
(株) ソ デ ィ ッ ク

大 昭 和 精 機 (株)
(株) 太 陽 工 機
高 松 機 械 工 業 (株)
(株) 滝 澤 鉄 工 所
(株) ツ ガ ミ
津 田 駒 工 業 (株)
(株) 東 京 精 密
東芝機械マシナリー(株)
東 洋 精 機 工 業 (株)
(株)ナガセインテグレックス
中村留精密工業(株)
(株)日研工作所
浜 井 産 業 (株)
日 立 ツ ー ル (株)
フ ァ ナ ッ ク (株)
富 士 機 械 製 造 (株)
ブ ラ ザ ー 工 業 (株)
豊 和 工 業 (株)
牧野フライス精機(株)
(株)牧野フライス製作所
(株)松浦機械製作所
三 井 精 機 工 業 (株)
(株) ミ ツ ト ヨ
三 菱 重 工 業 (株)
三 菱 電 機 (株)
三菱マテリアルツールズ(株)
(株) ミ ヤ ノ
メルダシステムエンジニアリング(株)
(株)森精機製作所
安 田 工 業 (株)
ヤマザキマザック(株)

〔リース業(16社)〕

N T T ファイナンス(株)
共 友 リ ー ス (株)
近畿総合リース(株)
興 銀 リ ー ス (株)
首 都 圏 リ ー ス (株)
昭 和 リ ー ス (株)
J A 三 井 リ ー ス (株)
住信・パナソニックフィナンシャルサービス(株)
東 銀 リ ー ス (株)
東 芝 ファイナンス(株)
日 本 機 械 リ ー ス 販 売 (株)
日 本 G E (株)
日 立 キ ャ ピ タ ル (株)
三井住友ファイナンス&リース(株)
三 菱 電 機 ク レ ジ ッ ト (株)
三 菱 U F J リ ー ス (株)